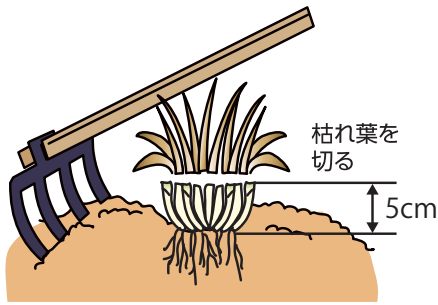
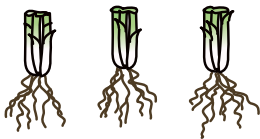


(図1)



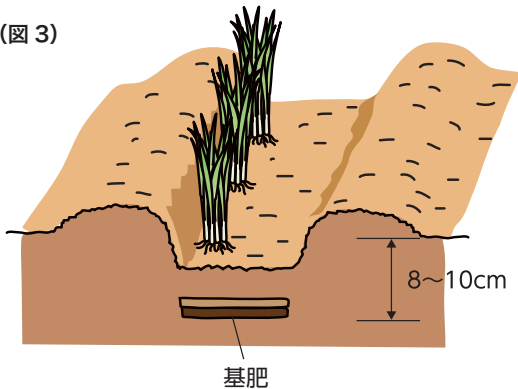
力を入れて大きく掘り起こす

(図2)



指先で2~3本ずつに分割する

(図3)



基肥

そうすると春には見違えるほどに、勢いの良い良質なニラになります。株が増えてきたら銀色のフィルムを畝上に二重掛けし、さらに黒色フィルムで覆い、黄ニラに育ててみるのも楽しみです。なお、販売用の高品質な物は、毎年種まきして育てた苗を植えて、年間随時販売する物で、通常古株は使いません。

肉との相性が良く、スタミナ料理などで親しまれるニラは、多年草で一度植えておけば、毎年、年に数回収穫できるので、家庭菜園に適した強い野菜といえるでしょう。しかし、いくら強いといっても2~3年取り続けると、株が密生気味になり、幅広で厚みのある良い葉が収穫できなくなってしまう。そうなる前に株分けし、更新する

**野菜づくり**

チャレンジ！

**ニラは早めの株分けと更新**

板木技術士事務所 板木利隆

のが得策です。株分けが一番良い時期は、葉が枯れ、根株が休眠状態に入っている冬の間です。この頃は根に栄養が十分蓄えられているので、断根や株の分割という荒療治をしても、傷みが少ないからです。株分けの方法は、まず地上に残っている枯れ葉を、5cmぐらいの高さできれいに刈り取ります。そして株の周りにクワかスコップを大きく打ち込んで、根株を土から掘り起こします(図1)。根は強大で、広範囲に広がっており、全てを一気に掘り取れないので、途中で縦に切断しても構いません。掘り上げたら土を振るい落とし、指先に大きく力を入れて大

割りし、さらに小割りして、(図2)のように2~3本ずつに分割します。これを2~3個まとめて20~25cmの株間に植え付けます。植え溝は事前に、8~10cmぐらいの深さに掘り、基肥として堆肥や油かす、緩効性の化成肥料などを十分に施しておきます。植える際には、根株を丸く束ねないようにし、茎が一直線に並ぶように植えます(図3)。溝は深めに掘って、植えた根株を寒気や乾燥から守ってやります。覆土は株の上部がやや出るくらいにとどめておき、やがて新葉が伸びだしてきたら、葉先を埋めないよう注意しながら、2回ほど覆土をして、溝が埋まるように管理します。

## 農機センターからのお知らせ

使わなくなった農業機械はありますか？



農機センターでは、農業機械の再利用を進めており、**ご使用にならなくなった農業機械の買取・販売を行っています。**

- 倉庫に使わない農業機械がある
- 農業をやめたので使わなくなった農業機械がある
- 古い農業機械

などお心当たりのある方は、気軽にお問い合わせください。※状態によっては買い取りできない場合があります。

■お問い合わせ先  
農機センター  
(中主営農センター内)

☎589・2308

(担当:橋本・北山)